**校　長　　栗山　悟**

**平成31年度　学校経営計画及び学校評価**

１　めざす学校像

|  |
| --- |
| 創設119年目を迎える府立富田林高等学校に大阪府立初の（併設型）中高一貫校として併設された本校は、６年一貫した教育を通して生徒･保護者・地域のニーズに応じた生徒の進路実現を図り、地域・社会に有為な人材（グローカル・リーダー）を育成することをミッションとし、未来に向けた挑戦を始める。  ＜中高一貫校としてめざす学校像＞  「地球的視野に立ち、地域や国のことを考え行動し、国際社会に貢献する人材」の育成校をめざす。  ＜中高一貫教育を通して育みたい力＞   1. グローバルな視野とコミュニケーション力 2. 論理的思考力と課題発見・解決能力 3. 社会貢献意識と地域愛 |

２　中期的目標

|  |
| --- |
| １　確かな学力の育成  （１）各教科・科目において、中高一貫して学習指導要領の目標を踏まえ、「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善に取り組む。  　　　ア　45分×７限授業（高校全学年33単位）により、確かな学力の育成に取り組む。  イ　「授業改革推進チーム」を核として、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に全教員で組織的に取り組む。  　　　ウ　６年一貫のCan-doリストに基づく英語の運用能力を推進する。  　　　エ　家庭学習ノートの一層の活用を図るなど、家庭での学習習慣の確立のための工夫をする。  　　※（生徒向け）学校教育自己診断における授業満足度(平成30年度74%)75％以上をめざし、３年後に80％をめざす。  ２　高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み  （１）SSHとなり、中高一貫して「探究」と「貢献」をキーワードに教育活動を組み立て、地域に対する愛情を基礎に、国際社会に貢献しようとする高い志をもつ人材を育成する教育を推進するとともに、進学実績の向上を図る。  ア　SSHとなり、科目「探究」では、「地域と連携した探究貢献活動」を実施するとともに海外との交流を拡充することで、国際社会で活躍できる力、社会への貢献意識、及び自己実現意識を育成する。  イ・中高一貫した進路指導実現のためのシステムを構築する。  　・現役での国公立大学進学者の合格者数（平成30年度現役合格者数50名）について、２学級減になるため40名以上をめざし、今後段階的な学級減にあわせ、３年後には5.0人に１人の合格をめざす。あわせて難関大学（京都、大阪、神戸等）への受験者増をめざす。  ※（生徒向け）学校教育自己診断における進路指導の満足度(平成30年度82%)85％以上をめざし、３年後に90％をめざす。また、（保護者向け）学校教自己診断における進路指導の満足度(平成30年度82%)85％以上をめざし、３年後に90％をめざす。  ３　豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取組み  （１）充実した学校生活こそが、「生きる力」の源泉になることから、中高一貫教育の観点から学校行事・部活動等の一層の充実を図る。  ア　＜中高一貫教育を通して育みたい力＞の育成に向けて、学校行事を充実させるととともに部活動を奨励する  　　イ　国際社会の一員として必要な人権意識・マナーを醸成する。  　　ウ　互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。  ※・（生徒向け）学校教育自己診断の学校行事満足度（平成30年度95％）90％以上をめざし、その後も90％以上を維持する。  （２）異文化交流による国際教育を中高一貫して推進する。  　　　　ア　国際交流（台湾、オーストラリア、タイ等）の充実  イ　・台湾やオーストラリアの姉妹校との交流の継続  　　・グローバル人材の育成に向けた海外研修の実施  　　※（生徒向け）学校教育自己診断結果で「国際交流を通してグローバルな視野とコミュニケーション力を身に付けた」（平成30年度88％）90％以上をめざし、その後も90％以上を維持する。    ４　中高一貫校としての組織の活性化と地域・保護者との連携  （１）中高一貫校として再編した分掌組織を機能させ、６年一貫した教育活動の充実を図る。  　ア　中高一貫の観点でそれぞれの校種の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、その中で人材育成を図る  イ　全国的な教育課程研究会への参加や、全国の教育先進校の視察を行い、中高６年間の教育内容を常に検討し改善に努める  ウ　中高一貫校として相応しい学校Webページの充実を図るとともに、校長ブログ等による情報の発信を強化する  ※（保護者向け）学校教育自己診断における情報発信の満足度(平成30年度86%)90％以上をめざし、その後も90％以上を維持する。  （２）地域・保護者と連携し、魅力ある学校づくりをすすめる。  ア　コミュニティースクールとして地域と連携のもと魅力ある学校づくりの推進  イ　安全・安心な学校づくり  ウ　地域貢献を推進  ※（生徒向け）学校教育自己診断における学校満足度(平成30年度91%)90％以上をめざし、その後も90％以上を維持する。また（保護者向け）学校教育自  己診断における学校満足度（平成30年度95％）90％以上をめざし、その後も90％以上を維持する。  ５　働き方改革の推進  　（１）業務効率の向上を図り、職員の心身の健康を維持する。  　　　ア　ノークラブデー、ノー残業デーの徹底  　　　イ　ルーティン化していた校務の見直しによる業務の軽減化 |

３　本年度の取組内容及び自己評価

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中期的  目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
| １　確かな学力の育成 | （１）各教科において中高一貫して学習指導要領を踏まえ、「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善に取り組む。  ア　45分×７限授業（高校全学年33単位）により、確かな学力の育成に取り組む。  イ「授業改革推進チーム」を核として、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に全教員で組織的に取り組む。  ウ　６年一貫のCan-doリストに基づく英語の運用能力を推進する。  エ　家庭学習ノートの一層の活用を図るなど、家庭での学習習慣の確立のための工夫をする。 | ア　45分×７限授業（高校全学年33単位、）により、学校生活をデザインする。  イ・年度当初に教科ごとにｱｸﾃｨﾌﾞ･ﾗｰﾆﾝｸﾞの取組みを検討し、各教員が「主体的・対話的で深い学び」の授業デザインをもてるようにする。  ・年に２回の中高合同の研究授業を実施するとともに、全教科の教科研修を一定期間設け、各教科での研究授業を他教科からも授業参観がしやすい環境をつくる。また、授業観察シートを活用して教科の専門性を超えた授業研究をおこなう。  ・生徒による「授業アンケート」を７月、12月に実施し、全教員による授業改善シートを作成する。  ・ICT環境の一層の充実を図るとともに、全教科でICT機器を活用した授業を展開し、成果を生徒用学校教育自己診断で測る。  ウ・英語のすべての科目でICT機器を活用した４技能統合型の授業を展開し、実践的な英語運用能力を高める。  　・１年生では毎朝10分間の「モーニング・イングリッシュタイム」を実施し、リスニング・スピーキング能力の向上を図るとともに、毎日実施できるよう教室の環境を整備する。  　・２年生では毎朝10分間を、数学（週１～２回）と英語（週３～４回）の学習に充てる。  　・高校１・２年生全員に英語能力試験（外部試験）を実施する。  エ　家庭学習記録ノートを作成することで、家庭での学習時間を増やす。 | ア　 （生徒向け）学校教育自己診断における授業満足度(平成30年度74%)75％以上をめざす  イ・（教員向け）学校教育自己診断「「主体的・対話的で深い学び」（アクティブラーニング）を意識して授業をしている。」（平成30年度83％）85％以上をめざす。  ・教科研修期間を設け、すべての教科で研究授業が実施できたか。また、年に２回の研究授業を実施するなど校内全体で授業研究を実践できたか。  ・２回の「授業アンケート」を実施し、全教員による授業改善シートが作成され改善がすすんだか。  ・ICT機器を効果的に活用した授業ができたか。  （教員向け）学校教育自己診断「ICT活用授業を行ったことがあるか」（平成30年度79％）80％以上をめざす。  （生徒向け）学校教育自己診断「教員によるＩＣＴ機器の使用は、授業の内容を理解する上で効果的である」（平成30年度90％）90％以上を維持する。  ウ・１・２学年全員が英語能力試験（GTEC）を受験し、その技能別結果を「見える化システムに入れ、全生徒が活用できたか。  エ　（生徒向け）学校教育自己診断「家庭学習を平均して１日90分以上している」３学年平均（平成30年度70％）75％をめざす。 |  |
| ２　高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み | （１）SSHとなり、中高一貫して「探究」と「貢献」をキーワードに教育活動を組み立て、地域に対する愛情を基礎に、国際社会に貢献しようとする高い志をもつ人材を育成する教育を推進するとともに、高校では６年一貫教育の結果としての進学実績の向上を図る。  アSSHとなり、「総合的な学習の時間」では、「地域と連携した探究貢献活動」を実施するとともに海外との交流を拡充することで、国際社会で活躍できる力、社会への貢献意識、及び自己実現意識を育成する。  イ・中高一貫した進路指導実現のためのシステムを構築する  　・現役での国公立大学進学者の合格者数（平成30年度現役合格者数50名）を３年後に5.0人に１人の合格をめざす。 | ア・本校のSSH（開発型）の目標（課題解決に向けた科学的探究力及びその探究力の基礎となる思考力・判断力・表現力を育成するプログラムの開発）を具現化するプログラムを開発し、その成果を分析できたか。  ・SSHとして、１年次の「探究Ⅰ」において、地域（行政、大学、研究機関、企業、NPO等）との連携を基礎に、ゼミ形式で探究活動を進め、学年末には学年での発表や地域フォーラムを開催する。  イ・３年生は基礎基本的な知識の定着を図るため、毎朝10分間小テスト（英・数・国）を実施するとともに、実施に向けて教室の環境を整備する。  ・本校独自の中高一貫した「学習見える化システム」を作成し、全生徒が活用し、将来の目標を早期に発見させる。  ・生徒・保護者に適切な進学説明会を継続して実施する。  ・進学講習を充実する。 | ア・SSHとして本校の到達目標を具現化するプログラムによる生徒の成長をPROG（リテラシーテスト）等で分析できたか。  （生徒向け）学校教育自己診断「「富高Eタイム」などの探究活動によって、深く考える力、情報を収集する力、発表する力が身についた。」（平成30年度64％）65％以上をめざす。  （教員向け）学校教育自己診断「生徒は探究活動によって、深く考える力、情報を収集する力、発表する力が身についた。」（平成30年度58％）60％以上をめざす  ・地域（行政、大学、研究機関、企業、NPO等）を巻き込んだ地域フォーラムが開催できたか。また府外の学校からも参加者を集めることができたか。  イ・生徒の「見える化システム」の利用率100％をめざす。  　・２学級減になり、国公立大学現役合格者数を40名以上をめざす。  （生徒向け）学校教育自己診断における進路指導の満足度(平成30年度82%)85％以上を維持する。  ・（保護者向け）学校教自己診断における進路指導の満足度(平成30年度82%)85％以上をめざす。  　・２学年後半から計画的に進学講習が実施できたか。（国・数・英） |  |
| ３　豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取組み | （１）充実した学校生活こそが、「生きる力」の源泉になることから、中高一貫教育の観点から学校行事・部活動等の一層の充実を図る。  ア　学校教育目標  で設定した＜育  みたい力＞の育成に向けて、学校行事を充実させるととともに部活動を奨励する  イ　国際社会の一  員として必要な  人権意識・マナ  ーを醸成する。  ウ　互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。  （２）異文化交流による国際教育を中高一貫して推進する。  ア・国際交流（台  湾、オーストラ  リア、タイ）の  充実を図る。  イ・台湾やオーストラリアの姉妹校との交流の継続  ・グローバル人材の育成に向けた海外研修の実施 | （１）  ア・中高合同の学校行事の効果的な実施と成果を  検証する。   1. 文化祭・体育祭における準備委員会を一層活性化させる。 2. 修学旅行や遠足等校外学習を３年間見通した計画を立てることで、内容の充実を図る。   ③　部活動への参加を奨励する。  イ・これまでの人権研修の実施計画を見直す。  ・挨拶、遅刻指導の充実と生活マナーを向上させる。  　・式（入学、卒業、始業・終業など）での標準服着用の指導。  ウ　中高一貫した「いじめ基本方針」に基づき、いじめを許さない仲間づくりを計画的に実施する。  （２）  ア　台湾やオーストラリア、タイをはじめとする様々な国の生徒との交流の充実を図る。  イ・オーストラリアの姉妹校との交流を充実させる。  ・新たな修学旅行先であるベトナムにおける学校交流で英語での課題研究の発表をする。  ・オーストラリアのクイーンズランドで課題発見・解決能力を高める海外研修（グローバルリーダー育成研修）を実施する。 | （１）  ア・（生徒向け）学校教育自己診断結果における行事満足度（平成30年度95％）90％以上の維持をめざす。  ・部活動加入率（平成30年度88％）90％をめざす。  イ　時代のニーズに合致した人権研修の実施。  ・ （生徒向け）学校教育自己診断結果における人権教育満足度（平成30年度88％）90％をめざす。  ・（生徒向け）学校教育  自己診断結果における校則遵守率（平成30年度97％）95%以上を維持する。  ウ （生徒向け）学校教育自己診断結果におけるいじめのない学校づくりに対する満足度（平成30年度86％）90％をめざす。  （２）  ア　多くの生徒が海外の高校生と交流できたか。  イ・オーストラリアの姉妹校と交流ができたか。  　・修学旅行先であるベトナムにおける学校交流で英語での課題研究発表ができたか  ・海外研修の参加者への研修後のアンケートで、研修満足度（平成30年度100％）100％を維持。  （生徒向け）学校教育自己診断「国際交流を通してグローバルな視野とコミュニケーション力を身に付けた」（平成30年度88％）90％以上をめざす。 |  |
| ４　中高一貫校としての組織の活性化と地域・保護者との連携 | （１）中高一貫校として再編した分掌組織を機能させ、６年一貫した教育活動の充実を図る。  ア　中高一貫の観点でそれぞれ校種の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、その中で人材育成を図る。  イ　全国的な教育課程研究会への参加や、全国の教育先進校の視察を行い、中高６年間の教育内容を常に検討し改善に努める。  ウ　中高一貫校として相応しい学校Webページの充実を図るとともに、校長ブログ等による情報の発信を強化する。  （２）地域・保護者と連携し、魅力ある学校づくりをすすめる。  ア　コミュニティースクールとして地域と連携のもと魅力ある学校づくりを推進する。  イ　安全・安心な学校づくりに努める。  ウ　地域貢献を推進する。 | （１）  ア・中学、高校それぞれの対応する分掌を協働的に機能させる。  　・中高一貫教育の観点で再編した分掌（中高一貫創生部）を機能させる中で、人材育成を図る。  イ　全国の先進中高一貫校の視察と情報収集を通してカリキュラムや組織体制を充実させる。  ウ　中高一貫校としてふさわしい学校ウェブページとし、積極的で効果的な情報発信をする。  （２）  ア・学校運営協議会を通して、学校運営や学校の課題に対して、より広く保護者や地域の住民の方々が学校運営に参画できるよう努める。  ・「めざす学校像」の共有化を図るとともにコミュニティ・スクールについて情報収集及び研修を行う。  イ・中高一貫した防災教育計画に基づき防災訓練等を実施するとともに、安全安心のための学校環境の整備を行う。  ・教育相談係による情報を収集し共有する。  ウ・地域からの要請に応えるだけでなく、地域に  出かける活動を取り入れる。  ・地域（行政、大学、研究機関、企業、NPO等）との連携を踏まえた「探究Ⅰ」の成果発表会である地域フォーラムの開催  　・地域貢献活動の実施 | （１）  ア・中高それぞれの対応する分掌が協働的に機能させることができたか。  　・継続的な人材育成が「創生部」の取組みとしてできたか。  イ　中高一貫校の先進校情報を収集し、学校づくりに活かせたか。  ウ　中高一貫校としてふさわしい学校webページから積極的で効果的な情報発信ができたか。  　　（保護者向け）学校教育自己診断における情報発信の満足度(平成30年度86%)85％以上を維持する。  （２）  ア・学校運営協議会を設置し、より広く保護者や地域の住民の方々が学校運営に参画し、意見交換が十分にできたか。  ・（生徒向け）学校教育自己  診断における学校満足度  (平成30年度91%)90％以上を維持する  （保護者向け）学校教育自己診断における学校満足度(平成30年度95%)90％以上を維持する。  イ　（生徒向け）学校教育自己診断結果における悩み相談の満足度（平成30年度65％）70％をめざす。  ウ・生徒会が中心となり幼稚園・小学校・中学校等と連携した活動ができたか。  ・地域（行政、大学、研究機関、企業、NPO等）との連携を踏まえた「探究Ⅰ」の成果発表会である地域フォーラムの開催できたか。  ・河川清掃などの地域でのボランティア活動を継続できたか。 |  |
| ５　働き方改革の推進 | （１）業務効率の向上を図り、職員の心身の健康を維持する。  ア　ノークラブデー、ノー残業デーの徹底  イ　ルーティン化していた校務の見直しによる業務の軽減化 | （１）  ア　各クラブのノークラブデーの徹底を周知するとともに、本校のノー残業デーである金曜日の職員朝礼でのアナウンス及び17時以降における退勤の職員間での声掛けを励行する。  イ　各種研修などの実施時期や実施時間帯を見直したりこれまでルーティン化していた行事を廃止するなど、校務を見直すことで業務の軽減化を図る | （１）  ア・ノークラブデーやノー残業デーが徹底されているか。  イ・校務の見直しを図ったか。  ア、イとも、（教員向け）学校教育自己診断結果における富田林高校での勤務満足度（平成30年度81％）85％以上をめざす。 |  |